

## ▼マンニット T 注 [注]

【重要度】★ 【一般製剤名】D-マンニトール (U) D-mannitol 【分類】浸透圧性利尿, 脳圧・眼圧降下剤

【単位】▼500mL/袋 [15%]

【常用量】D-マンニトールとして1.0~3.0gを15~25%高張液として点滴静注 [D-マンニトールとして最大200g/日]

【用法】100mL/3~10分で点滴静注

【透析患者への投与方法】無尿の患者には投与しない (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】腎障害のある患者では血中濃度上昇に伴い血漿浸透圧が上昇し、循環血液量が増加して急性腎不全の原因になることがあり慎重投与 (1)

【その他の報告】データなし (17) CKD・AKIによる無尿状態には禁忌 (FDA)

【特徴】細胞外液相のみに分布し、尿細管で再吸収されないため細胞外液の浸透圧上昇による細胞容積の縮小と細胞外液量の増大、浸透圧利尿による尿量増加がみられる。脳圧降下、眼圧降下作用もあるが、脱水をきたしやすいのが欠点。近位尿細管で浸透圧物質として作用してNa、水利尿をきたす。一時的に循環血液量の増加が起こるので心不全、肺浮腫がある場合には使用しない。腎機能障害時、心機能障害時には心不全の出現に注意する。

【主な副作用・毒性】急性腎不全、高K血症、低Na血症、代謝性アシドーシス、頭痛、悪心、めまい、脱水症状など

【モニターすべき項目】血圧、血清電解質 (K, Na)、腎機能、尿量

【代謝】わずかに代謝され、肝でグリコーゲンになる (U)

【排泄】尿中回収率 80% [iv, 3hr まで] (U) 糸球体でろ過され、分泌や再吸収されず、代謝や抱合もされないため、腎クリアランスはイヌリンクリアランスと同等 (Replacement of renal function by dialysis 3rd ed, 1018-1076)

【t1/2】100min (U) 2.17 [2~36] hr (11)

【Vd】0.16~0.27L/kg (11)

【分布】細胞外液に分布。血中マンニトール濃度が高度に上昇したり、アシドーシスの患者では血液脳関門を通過し、頭蓋内圧のリバウンド的上昇の原因となる (U)

【MW】182.17

【透析性】透析によって除去されやすい (5)

【O/W 係数】低い (11)

【効果発現】利尿作用：1~3hr、脳脊髄圧・眼圧の低下：注入開始後15min以内【最大効果発現時間】眼圧低下：4~8hr 持続

【更新日】20170119

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。